

ふるさと講座 歴史系 ～幻の町キラクを訪ねる～

野付通行屋・番屋跡遺跡

6月20日(土)に開催されたふるさと講座・歴史系で、野付通行屋・番屋跡遺跡を見学しました。あいにくの空模様でしたが、8名の参加者があり往復約5キロの草分け道を歩き野付通行屋跡遺跡にたどりつきました。この遺跡は、平成15～17年度に海岸部分が自然崩壊の恐れがあるということで、発掘調査を行っています。段丘上にも遺跡は広がり、畑跡やお墓などが今も残っていることから、江戸時代のノツケの風景が想像出来たかと思えます。

1. 幻の町キラクとは？

野付半島につたわる伝説である。

「江戸時代末期にたくさんの建物が建ち並び、武家屋敷、遊郭などがあった。しかし、いつの頃から忽然と姿を消した。」など

2. 文献史料では？

(1) 野付通行屋跡遺跡

- ①寛政11年(1799)江戸幕府の陸路・海路の整備に伴い、野付半島先端に野付通行屋が置かれ、国後島へ渡る要所となる。(但、それ以前からすでに国後島へ渡る要所であった。)
- ②通行屋には支配人とその妻、他アイヌの人足8人が詰めていた。なかでも、加賀伝蔵は、野付通行屋支配人としてたくさんの古文書資料を残し、支配人・アイヌ語通訳として活躍し、野付半島で農耕を試みた人物として知られている。
- ③加賀家文書「ノツケ通行所建物等調」
 - 通行屋 1棟(6×18間) ●下宿所 1棟(4×9間)
 - 板蔵 3棟(3×2間半) ●炊出小屋 1棟

(2) 野付番屋跡遺跡

- ①野付通行屋の対岸の外海側に面した場所にあった鯨漁場である。根室場所の各番屋の出張番屋が50～60軒ほどあり、漁期には番人、アイヌのほとんどが集まったようである。
- ②天保(1830)～弘化(1847)にかけては、大漁で1万石も捕れたとの記録がある。しかし、潮の流れが変わり次第に不漁となり安政3年(1856)には3か所の番屋しか稼動していなかった。

(3) 野付通行屋・番屋のその後。

明治に入ると交通が発達し、制度も代わり野付通行屋の要津としての働きも終りを告げた。外海側の漁番屋は、明治3年(1870)の場所請負制の廃止により漁場持制度となり、記録によると野付半島の基部から先端には29か統の漁場が記されている。

3. 野付通行屋跡遺跡の発掘調査では？

平成15～17年度にかけて自然崩壊に伴う発掘調査を実施した。(海岸部分)

- 検出遺構—建物跡2、柱穴列2、溝跡17、貝塚・貝集中地点8、灰堆積ヶ所5、盛土1、道跡1、集石2、土壇2、柱穴・杭穴446。
- 出土遺物—陶磁器類5、690点、金属製品1、800点、古銭30点、石製品等1、583点、骨角器2点、木製品219点、ガラス製品32点、計9、356点。



草分け道をひたすら歩きます。



発掘調査した海岸部分。



お墓付近

ふるさと講座 自然系 第2回目のお知らせ!

コウモリ観察会

別海町には1万頭を超えるコウモリが棲息していると考えられています。今回の観察場所である奥行臼駅通とその周辺にはウサギコウモリとホオヒゲコウモリが棲みついでおり、夜になると餌を求めて飛び立ちます。学術調査も兼ねて講師の方にコウモリの生態を解説していただきます。

自由に飛び回ることのできる唯一のほ乳類であるコウモリの姿を、間近で観察してみよう。

- 日 時 7月24日(金) 午後6時30分～午後8時30分(雨天決行)
- 場 所 道指定有形文化財 奥行臼駅通(別海町奥行15番地12)
- 講 師 根室市歴史と自然の資料館 学芸主査 近藤 憲久 氏
- 内 容 ①コウモリについてお話 ②コウモリの捕獲・計測・観察
- 募集人員 20名(児童・生徒は保護者の方と一緒に参加してください。)
- 参加申込 電話・FAX・メールのいずれかにてお名前
電話番号をお知らせください。
- 受付期間 7月23日(木)まで。ただし、定員になり次第締め切ります。
- その他 ①軍手か手袋、虫除けスプレー、
ヘッドライトか懐中電灯を持参してください。



サマースクール「むかし、むかしのべつかい」のお知らせ!

古代の装飾品「勾玉」を作ろう

- 日 時 8月7日(金) 午後1時～3時30分
- 場 所 別海町郷土資料館
- 内 容 ①お話—むかし、むかしのべつかい
②体験活動—まが玉づくり
- 募集人員 小学校以上 20名(親子参加可)・参加料無料
- 参加申込 電話・FAX・メールのいずれかにてお名前・電話番号をお知らせください。
- 受付期間 8月6日(金)まで。ただし、定員になり次第締め切ります。



別海町郷土資料館だより No.120

発行日 平成21年7月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記 毎年一度は、野付通行屋跡遺跡に行き、遺跡の現状を確認します。調査時よりは砂の堆積も多くなっているような気がしました。蚊に刺されながら行った調査から早や3年がたちましたが、国後島や知床～根室半島を一望出来る風景はあの頃とまったく変わりがなかったので安心しました。恐らく江戸時代から同じだと思います。(K.I)